



平成28年5月11日

各 位

会 社 名 JALCO ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 田辺 順一
(JASDAQ・コード 6625)

問合せ先

役 職・氏 名 取締役管理本部長 大浦 隆文
電 話 050-5536-9824

営業外収益、営業外費用、特別損失の発生及び繰延税金資産の計上並びに業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成28年3月期（平成27年4月1日～平成28年3月31日）通期決算において、営業外収益、営業外費用、特別損失及び繰延税金資産を計上するとともに、平成27年8月5日に公表いたしました平成28年3月期の連結業績予想について修正することとしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 営業外収益の発生

(1) 貸倒引当金戻入額（連結）

平成27年5月15日発表「営業外費用の発生及び繰延税金負債の取り崩し並びに業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、当社は、平成27年3月期通期決算におきまして、電子機器用部品事業の譲渡にかかる譲渡代金の債権残高50百万円（平成27年3月末現在）に対して貸倒引当金を計上いたしました。

その後、当連結会計年度におきまして、当該譲渡先より譲渡代金の一部として20百万円を受領しましたので、貸倒引当金戻入額20百万円を営業外収益として計上いたします。

（本件に関しましては、平成28年2月5日発表「営業外収益及び特別損失の発生に関するお知らせ」のとおり、当第3四半期累計期間におきまして貸倒引当金戻入額15百万円を計上しておりましたが、その後、当第4四半期に譲渡代金の一部として5百万円を受領したため増額となったものであります。）

(2) 貸倒引当金戻入額（連結）

平成26年6月9日発表「特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、当社は、平成26年3月期通期決算におきまして、当社連結子会社である株式会社ジャルコ（以下、「ジャルコ」といいます。）が保有する杭州佳路克電子有限公司向け債権の全額に対して、貸倒引当金を計上いたしました。当該債権は全額がUS\$建てであり、為替相場の変動により、平成28年3月末の残高が平成27年3月期末の残高から5百万円減少したことに伴い、貸倒引当金戻入額5百万円を営業外収益として計上いたします。

(3) レンタル代金受領益（連結）

当社は、当社連結子会社である株式会社ジャルコアミューズメントサービス（以下、「JAS」といいます。）が取引先ホール企業との間で行った中古設備（以下、「当該設備」といいます。）の取得取引、レンタル取引、及び売却取引について、当該設備のほとんどが他人物であった事実が判明したことを受けて、平成26年3月期決算におきまして、レンタル契約に基づくレンタル売上高、及びレンタル資産にかかる減価償却費を全て取り消した上で、JASが取引先ホール企業に支払った当該設備の取得代金50百万円を仮払金、取引先ホール企業から受領したレンタル料、当該設備の売却代金の合計額58百万円を仮受金とする資金取引に訂正し、仮受金から仮払金を差し引いた8百万円を雑収入として計上する会計処理を行い、平成26年6月12日に過年度の決算短信等の訂正、及び平成26年3月期通期決算短信を発表いたしました。

ところが、有価証券報告書作成にあたっての精査におきまして、当時の会計監査人より、JASによる当該設備売却日（売却代金29百万円）と同日に、ジャルコが、取引先ホール企業に対して36百万円の貸し付けを行っていたことに関して、取引先ホール企業のJASに対する支払原資が、ジャルコによる貸付金であると見なされる可能性があることから売却代金の収益認識は時期尚早ではないかという指摘を

受けました。当社としましては、JASにおける収益認識を目的とした取引であるという疑念を抱かれる可能性がある会計処理は避けるべきであるという判断に至り、売却代金 29 百万円の収益認識を見送る旨の訂正処理を行い、仮受金 29 百万円を計上いたしました。

(上記の詳細な経緯につきましては、平成 26 年 6 月 27 日発表「平成 26 年 3 月期決算短信の一部訂正について」をご参照ください。)

当社は、当第 1 四半期累計期間決算におきまして、当該仮受金の収益認識の時期・方法について改めて検討いたしました。その結果、ジャルコから取引先ホール企業への貸付金の残高と同額となるまで仮受金を取り崩し、収益認識することが妥当であるとの結論に至り、当連結会計年度におきまして、レンタル代金受領益 15 百万円を営業外収益として計上いたします。

(本件に関しましては、平成 27 年 8 月 5 日発表「営業外収益、特別利益及び特別損失の発生並びに業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、当第 1 四半期累計期間におきましてレンタル代金受領益 8 百万円を計上しておりましたが、その後、ジャルコから取引先ホール企業への貸付金について約定返済が進行したことに伴い増額となったものであります。)

(4) 受取賃貸料 (連結、個別)

当社が保有しております遊休不動産 (旧ジャルコ川西工場 新潟県十日町市) における受取賃貸料 6 百万円を営業外収益として計上いたします。

(本件に関しましては、平成 27 年 10 月 28 日発表「営業外収益、特別利益の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、当第 2 四半期累計期間におきまして受取賃貸料 3 百万円を計上しておりましたが、その後も賃貸料の受領が進行しているため増額となったものであります。)

2. 営業外費用の発生

(1) 借入手数料 (連結)

ジャルコにおける既借入金の金利引下げ実現に伴い発生した諸費用 16 百万円を営業外費用として計上いたします。

(2) 為替差損 (連結)

為替相場の変動により、当連結会計年度において、為替差損 5 百万円を営業外費用に計上いたします。

3. 特別損失の発生 (連結・個別)

平成 27 年 12 月 11 日発表「本社移転に関するお知らせ」のとおり、当社グループは、平成 28 年 2 月末に本社移転を行っております。この本社移転に伴う固定資産除却損、移転費用等 4 百万円を特別損失として計上いたします。

4. 繰延税金資産の計上 (連結)

当社は、平成 28 年 3 月期及び今後の業績動向を踏まえ、ジャルコにおける繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、回収可能性のある部分について繰延税金資産を計上することとし、平成 28 年 3 月期におきまして、法人税等調整額△30 百万円 (△は利益) を計上いたします。

5. 連結業績予想の修正及び修正理由

平成 28 年 3 月期通期連結 (平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	630	150	70	80	1 円 66 銭
今回修正予想 (B)	567	133	59	113	2 円 34 銭
増減額 (B - A)	△63	△17	△11	33	—
増減率 (%)	△10%	△11.3%	△15.7%	41.3%	—
(ご参考) 前期実績 (平成 27 年 3 月期)	888	120	△46	△48	△1 円 00 銭

連結売上高は、前回予想を 63 百万円下回り 5 億 67 百万円となる見込みです。これは主に、事業全般として取引の安全性、収益性などの観点から、個別案件の取捨選択を行ったことによるものであります。

連結営業利益は、前回予想を 17 百万円下回り 1 億 33 百万円となる見込みです。これは主に、売上高の下振れによるものであります。

連結経常利益は、前回予想を 11 百万円下回り 59 百万円となる見込みです。これは主に、上記のとおり営業利益が下振れする一方で、「1. 営業外収益の発生」及び「2. 営業外費用の発生」のとおり営業外損益を計上することなどによるものであります。

親会社株主に帰属する連結当期純利益は、当初予想を 33 百万円上回り 1 億 13 百万円となる見込みです。これは主に、上記のとおり経常利益が下振れする一方で、「4. 繰延税金資産の計上」のとおり法人税等調整額△30 百万円（△は利益）を計上することに加えて、法人税等が前回予想時の想定を下回る見込みとなったことなどによるものであります。

ご注意：本資料に記載しております業績に関する予想数値は、いずれも本資料の発表時現在において入手可能な情報による判断及び仮定に基づくものであり、実際の業績は当該予想と異なる場合がありますので予めご理解ください。

以 上